

# 答申書

令和6年3月15日

美濃市教育委員会  
教育長 島田 昌紀 様

美濃市将来の学校のあり方検討会

将来の学校のあり方について（答申）

子どもが希望をもって学ぶことができる学校とするために、以下のことを求めます。

1. 校内環境について

子ども一人ひとりが自分の良さを伸ばしたり発見したりできる環境を整備すること。

2. 校外環境について

地域の人々と子どもが関わる機会を積極的に設け、地域の教育力が生かせる仕組みを構築すること。

3. 学校規模について

子どもがより多くの仲間と関わることを保障するために、学校の再編成を早急に推し進めること。

※ 上記答申の趣旨説明と関係資料を添えて答申とします。

## 【答申のキーワードと趣旨説明】

### キーワード

- ☆ 自分をどんどん伸ばせる学校
- ☆ 安心して遊び、学べる環境を地域とともにつくる学校
- ☆ 仲間と関わって学び、遊び、活動できる学校

### <答申の趣旨説明>

#### 1. 校内環境について

美濃市の小中学校では、それぞれの子どもが興味を持った学習内容に取り組み、理解の程度に応じた学習方法を工夫するなど、個に応じた学びの成立を大切にしている。そのため、小学校においても教科の学習を継続して発展的に学ぶことができる教科担任制を導入したり、9年間の成長を見通した小中一貫教育を実施したりするなど、子ども一人ひとりが自分の良さを伸ばしたり発見したりできる環境を整備したい。

また教科指導や特別支援のサポート体制整備とともに、心理、運動、栄養、安全、福祉、医療などの専門性を備えた人材の配置や関係機関との連携により、子どもの成長を促し見守るような、未来を見据えた教育環境を提供したい。

#### 2. 校外環境について

小学生の登下校の安全確保や地域で安心して遊べる時間・場所の整備、あるいは、地域の団体や関係者と学校が連携した子どもが学ぶ環境の整備など、児童生徒を見守る地域の安心安全及び教育体制を充実させたい。

それに向けて、地域の人々が気軽に学校を訪れたり、子どもが地域の活動に参加したりするなど、地域の人々と子どもが関わる機会を積極的に設け、地域の教育力が生かせる仕組みを構築したい。

#### 3. 学校規模について

美濃市の小中学校は、一学級の児童生徒数が20～30人で、一学年に複数学級あることが適正と考える。その中で仲間と関わりながら学び、遊び、運動し、活動に取り組み、行事を楽しむことができる学校生活ができることを大切にしたい。

全国的な少子化の傾向は美濃市においても顕著に見られる。成長とともに仲間関係が変化したり新たな仲間をつくったりできる環境は、様々な感性や考え方にふれる機会を生み出す要因となる。児童生徒がより多くの仲間と関わることを保障するために、学校の再編成を早急に推し進めたい。